

国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

2004 活動実績 ダイジェスト



ACTIVITY DIGEST 2004

地域に支えられ世界に挑戦する大学



理 念

滋賀医科大学は、
地域の特徴を生かしつつ、
特色ある医学・看護学の教育・研究により、
信頼される医療人を育成すること、
さらに、世界に情報を発信する
研究者を養成することにより、
人類の健康、医療、福祉の向上と
発展に貢献する。



国立大学法人となって

国立大学の法人化

長年、国の機関として設置されていた「国立大学」は、平成16年4月から各大学に独立した法人格が付与され、「国立大学法人」となりました。法人化後は、大学の運営に関して国（文部科学省等）からの規制が緩和され、各大学が自主的・自律的に決定できる運営の裁量枠が拡大されました。

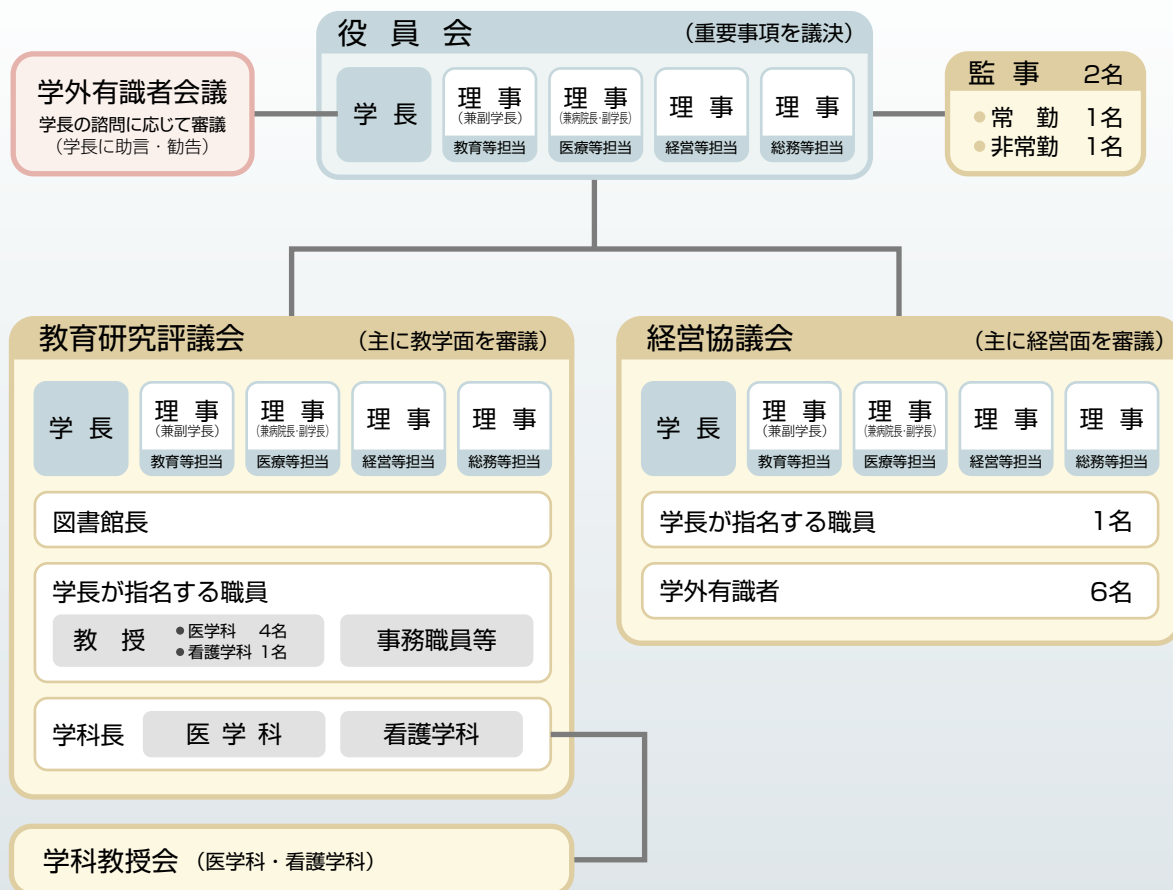
本学では、学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学管理運営体制を構築するとともに、法人化のメリットを生かし、教育・研究・診療等の諸活動についてこれまで以上に地域の方々の期待に添えるよう努力してまいります。

中期目標・中期計画に基づく各種事業の実施

法人になって、各法人は大学の理念及び中期目標、中期計画に基づいた年度毎の事業計画を策定し、その計画に基づいて大学運営等を行っていくことになりました。

本学でも法人化の初年度、年度計画に基づいて各種事業を実施しました。

国立大学法人 滋賀医科大学 管理運営組織図



教育面での活動

国家試験合格率に達成目標値を設定

平成17年 滋賀医科大学 国家試験合格率

医師国家試験
合格率は

★全国第6位
★西日本でトップ

国家試験区分	目標数値	ほぼ目標達成 平成17年 合格率
医師	95%以上	96.4% (全国平均：89.1%)
看護師	98%以上	100.0% (全国平均：91.4%)
保健師	95%以上	92.6% (全国平均：81.5%)

学生の自主的な学習を支援するための取組

- ☐ 新入生を対象に、アドバイザーとして教員を配置し、きめ細かい支援を実施（アドバイザー制度）
- ☐ 指導者を対象に、少人数能動学習の充実を目的としたFD研修を実施
- ☐ 自主的な学習場所を提供（多目的18室、図書館の利用時間延長等）
- ☐ 医学科では正課として自主研修を導入
- ☐ 国家試験対策用グループ学習の場所の提供及び補講を実施

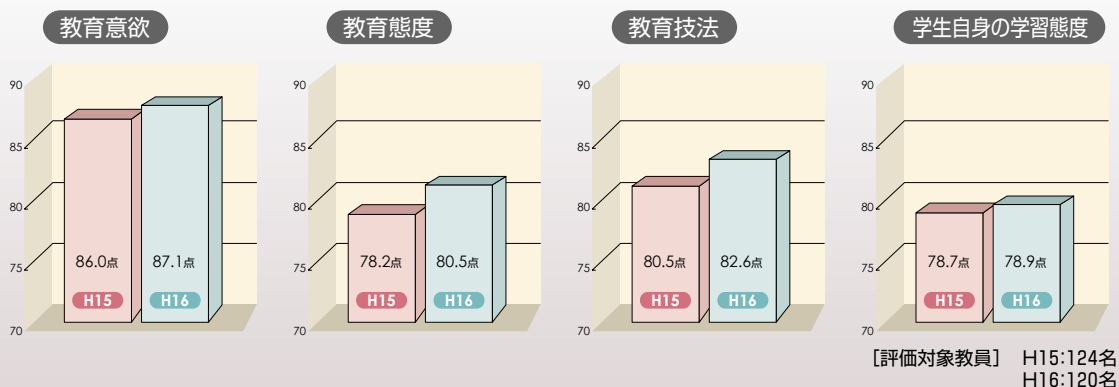


授業評価を実施

- ☐ 学生の視点に立った教育を行うために、学生、教員自身、第三者（他大学教員）による授業評価を実施
- ☐ 評価を受けた教員からはその結果に対する意見や感想、反論、改善策等を収集
- ☐ これらを報告書としてまとめHP等で公開

▶▶▶ **学生は学習方法を、教員は教授方法をそれぞれ点検し、教育効果の向上に生かしている**

学生による授業評価（100点満点）の結果（前年度との比較）



文部科学省

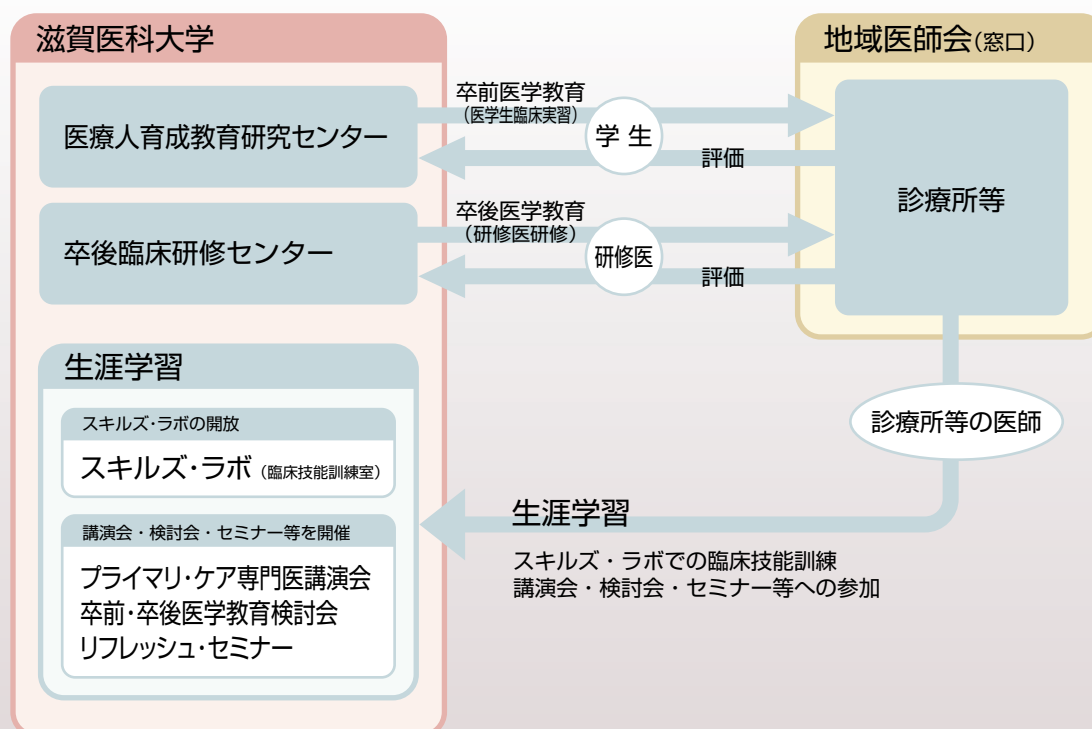
「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)^(注)」に採択

【産学連携によるプライマリ・ケア医学教育】

- 回 近年、一般医として幅広く全人的に診療できるプライマリ・ケア医を育成することが重要であるという認識が広がっています。
- 回 本取組は、地域医師会と連携し、医療・地域保健を担う診療所等のプライマリ・ケア医に教育担当者として参加していただくことにより、卒前(学生)及び卒後(研修医)に対する医学教育を充実させることを目指しています。
- 回 診療所等の医師にスキルズ・ラボ(臨床技能訓練室)を開放するとともに、リフレッシュ・セミナーや講演会等を開催することによりプライマリ・ケア医の生涯教育を充実させて、医療・地域保健レベル全体を向上させようとするものです。



現代的教育ニーズ取組図



(注) 高等教育の活性化を目的としたプログラム。社会的要請の強い政策課題に対応した優れた教育プロジェクト(取組)を文部科学省が選定し、財政支援を行う。

研究面での活動

世界最先端の研究を実施

- 回 「何でもできる大学」ではなく「何かができる大学」を目指し、本学の特徴を生かせる「5つの研究」を重点プロジェクトとして定め公表しています。
 - 回 各プロジェクトでは、医科大学の特色を生かし、基礎医学と臨床医学が連携して研究を進めています。
- ▶▶▶ **医療・医学の分野で研究成果を社会に還元すべく研究活動を行っています。**

5つの研究プロジェクトの活動実績

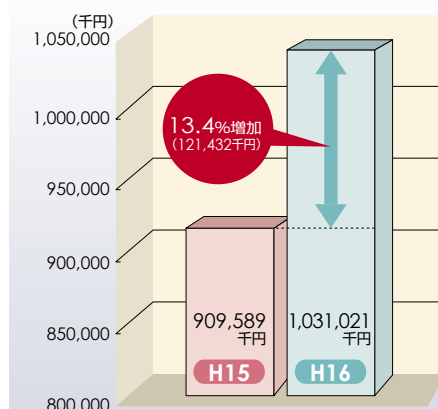
研究プロジェクト	活動実績
1 サルを用いた 医学研究	胚性幹細胞を用いた再生医療研究 <ul style="list-style-type: none"> ● GFP (蛍光蛋白質) 遺伝子を導入したキメラザルの作製に成功 ● 「人獣共通感染症に関する基礎研究連携事業」が平成17年6月からスタート
2 核磁気共鳴 (MR) 医学研究	科学研究費補助金(基盤S)を獲得…【日本学術振興会】 <ul style="list-style-type: none"> ● MR画像による生体内標識幹細胞の無侵襲追跡技術と再生医療への応用
	都市エリア産学官連携促進事業…【文部科学省】 <ul style="list-style-type: none"> ● マイクロ体内ロボットの開発等
	科学技術振興調整費を獲得…【科学技術振興機構】 <ul style="list-style-type: none"> ● MR画像対応手術支援マイクロ波機器の開発
3 神経難病研究	滋賀県との共同研究プロジェクト…【滋賀県】 <ul style="list-style-type: none"> ● アルツハイマー病の画像診断法の開発
4 国際疫学共同研究	科学研究費補助金(基盤A)を獲得…【日本学術振興会】 <ul style="list-style-type: none"> ● 若年男性の冠動脈石灰化と頸動脈肥厚による動脈硬化度と循環器疾患危険因子との関連
5 地域医療支援研究	地域貢献特別支援事業…【文部科学省】 <ul style="list-style-type: none"> ● 医療・保健・福祉セルフヘルプグループ支援体制整備事業

研究面での支援策と成果

- 回 外部資金の獲得が順調に推移
- 回 本邦初の7テスラ^(注)動物用MR装置が本格的に稼働(MR医学総合研究センター)
- 回 独創的な発想による研究を支援するため、学長裁量経費(大学戦略経費)を活用して学内公募し、8題の研究を支援
- 回 5つの研究プロジェクトに重点的に研究経費を投入
- 回 外部資金を活用した人事制度を導入(特任助手を配置)

(注) テスラとは、磁束密度の国際単位で、1テスラ=10000ガウスです。(永久磁石の最高磁場:1テスラ程度、地球の磁場:0.0001テスラ程度)

外部資金 受入状況 (前年度との比較)



診療面での活動

患者様中心の効率的で質の高い医療を提供するために以下の取組を実施

取組

患者様中心の病院への
転換の強化

従来の内科や外科とい
った枠組みを外し、診
療科の垣根を越えたチ
ーム医療の推進

基礎及び臨床研究の成
果を生かし、質の高い
医療及び高度専門的診
療を推進

地域の医療機関と連携
し、地域の中核病院と
して不可欠な医療分野
を整備

実績と成果

患者様へのサービス向上

- ① 患者様からの意見（アンケート含む）を速やかに分析し、診療待ち時間等の外来環境や療養環境の改善につなげる体制を推進
- ② 診療時間の拡大、MR検査予約枠の延長（20時まで）により、予約待ちを2週間から1週間に短縮

高度専門的心臓血管診療の推進

- ① 高度専門心臓血管手術の推進
 - 年間300例を超える高度専門心臓血管手術（心拍動下冠動脈手術）を実施
- ② 不整脈治療の高度化
 - 全国でもいち早くカテーテル・ナビゲーション（CARTO）システム^(注1)を導入
 - 心筋焼灼術^(注2)実施数では全国国立大学病院中第1位



質の高い医療の推進

- ① 生活習慣病センター
 - 生活習慣国際共同研究の成果を生かし、禁煙指導、栄養、運動、ストレスなどの特色ある生活習慣病介入外来を新設
- ② 睡眠障害センター
 - 日本で初めて開設された睡眠学講座（寄附講座）と連携し、睡眠時無呼吸外来、特殊睡眠外来を新設
 - 公開講座等を積極的に実施し（約40回）、近隣病院にはサテライト睡眠センターを開設

地域中核病院としての取組

- ① 特色ある診療活動の活性化
 - 軽度発達障害の外来及び生殖医療センターを開設
 - 高度周産期医療の推進、産科オープンシステム^(注3)の導入を決定
- ② 三次救急への積極的な取組
 - 救急医療の飛躍的増加（対前年度比14%増加）

(注1) 磁気を発生させ心臓の立体的画像を作り出し、カテーテルの位置や不整脈発生部位等を正確に表示するシステム

(注2) 先端に電極がついたカテーテルを使って、不整脈の原因となる異常な箇所を焼灼する治療法

(注3) 地域の産婦人科医院等では処置の難しい出産などを設備や人員が整っている総合病院で行うシステム

社会貢献面での活動

単科医科大学の特色を生かした取組を実施

① 地元小・中・高等学校への出前授業等

- 小・中・高等学校への出前授業を10校実施
- 小学生を対象としたサイエンス・パートナーシップ・プログラム事業(大学などの人材、施設、設備を小中高等学校での科学技術・理科・数学教育に活用。以下SPP事業)を教育連携講座として実施(草津市立山田小学校)
- 滋賀大学附属中学校のSPP事業に講師3名を派遣
- スーパーサイエンス事業として、彦根東高校へ講師派遣及び本学の施設見学を実施



授業風景(SPP事業)

② 地域医療機関との連携

- 学外の臨床指導医に対しリフレッシュセミナーを実施
- スキルズ・ラボ(臨床技能訓練室)を医師会や同窓会などに開放



スキルズ・ラボ

③ 地域貢献特別支援事業を推進

- 医療福祉教育研究センターを中心に滋賀大学・龍谷大学・滋賀県(保健医療福祉連絡協議会)と協力し、発達障害児支援や精神障害者支援などを推進

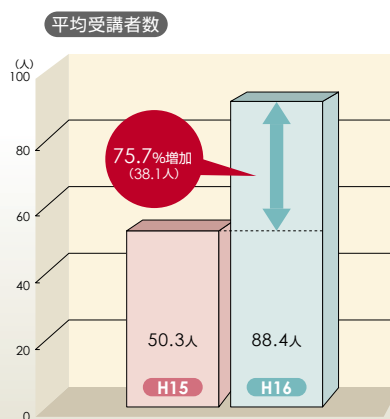
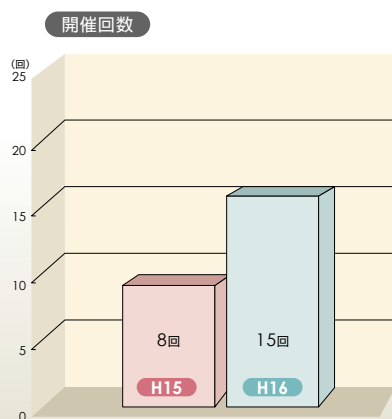
④ 公開講座・教養講座の実施

- 開学30周年にあたり、例年を上回る数の公開講座・教養講座を実施
- 記念事業として3種類の市民公開講座を開講





市民公開講座

公開講座開催数等の対前年度比較




インフォメーション1 (各種ご案内)


教育について 連絡窓口 学生課 TEL.077-548-2068

現代GP ^(注1) 産学連携による プライマリ・ケア医学教育	目 標 幅広く全人的に診療できるプライマリ・ケア医の育成 と医療・地域保健レベル全体の向上 など	
	取 組 地域医師会との連携、卒前医学教育・卒後臨床研修及 びプライマリ・ケア医の生涯教育の充実 など	
医療人GP ^(注2) 一般市民参加型全人的 医療教育プログラム	目 標 疾病をもつ一人ひとりの患者に適切に対応する全人的 医療を十分に実現できる医師の育成	
	取 組 患者訪問実習・面接医療実習等、一般市民直接参加型 の医学教育プロジェクトの実施	

研究について

サルを用いた 医学研究 動物生命科学研究センター	主な研究 <ul style="list-style-type: none"> ● 霊長類の計画的室内人工繁殖によるSPF個体の作製 ● サルES細胞樹立と各種機能細胞への分化・誘導 ● 遺伝子改変サルの作製 ● サルクローン胚作製による免疫拒絶のないES細胞の樹立 ● 霊長類の精子・卵子・体細胞等の保存 など 	
	事業計画 「人獣共通感染症に関する基礎連携研究事業」 をスタート (事業計画期間：平成17年6月～平成22年3月) 人獣共通感染症(インフルエンザ、SARS、BSE等) に対するワクチンを他大学と共同開発・効果判定を行う	

連絡窓口 **動物生命科学研究センター** TEL.077-548-2332

核磁気共鳴(MR) 医学研究 MR医学総合研究センター	主な研究 国内で最大口径の「超高磁場(7テスラ)動物実験用 MR装置」による先進的診断法の開発、MRガイド下 低侵襲手術・インターベンション等の治療分野の研究 など	
--	---	---

連絡窓口 **MR医学総合研究センター** TEL.077-548-2326

(注1) 現代GP：現代的教育ニーズ取組支援プログラム(P4参照) GP=Good Practice

(注2) 医療人GP：地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム

教育研究病院である大学病院の教育の活性化を目的としたプログラム。地域医療や全人的医療を実現できる医療人養成の取組を文部科学省が選定し、財政支援を行う。

インフォメーション2 (各種ご案内)

病院・診療について

連絡窓口

企画調整室 TEL.077-548-2012

本院の活動や患者様に役立つ医療情報等を掲載したパンフレットを院内に備え付けています。

滋賀医大病院ニュース

「本院の活動や各診療科からのお知らせ」などの情報を広く発信しています。



最近の掲載内容

- 心拍動下冠動脈バイパス手術等
- 待ち時間の調査結果
- 光学医療診療部における早期癌の内視鏡治療

など

滋賀医科大学附属病院TOPICS

「各種疾患・治療法などについての役立つ情報」を提供しています。



最近の掲載内容

- Vol.34
もの忘れ外来
- Vol.33
前立腺癌小線源治療
- Vol.32
心臓カテーテルによる冠動脈インターベンション

など

社会貢献・連携について

滋賀医科大学 公開講座

公開講座、教養講座などを随時開催。
〔例〕
「高齢化・ライフスタイルと健康」
「本当ですか？あなたの周りの癌予防法」
「わかりやすい心臓病治療最前線」 など



連絡窓口

学生課 TEL.077-548-2064

「眠りの森」事業

睡眠健康サービス
産業の展開

目
標

睡眠に関する総合的な健康サービス（快適な眠りによる疾患予防・健康増進）事業の創出

取
組

睡眠ドック、睡眠健康プログラムの開発・提供等、多角的・包括的な睡眠問題解決のための事業の展開



連絡窓口

睡眠学講座 TEL.077-548-2915

滋賀医科大学ホームページ (<http://www.shiga-med.ac.jp/>)
から詳細をご覧ください。

評価結果

本学が提出した平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書^(注)に基づき、国立大学法人評価委員会(野依良治 委員長)が評価を行ったものです。

本学の評価結果

① 『5段階評価』においては以下のとおり評価されました。

回 5段階評価 (5:最上位)

- 業務運営 →4 (計画通り進んでいる)
- 財務内容 →4 (計画通り進んでいる)
- 自己点検・評価 →4 (計画通り進んでいる)
- その他 →3 (おおむね計画通り進んでいる)



② 『記述式評価』においては以下のとおり評価されました。

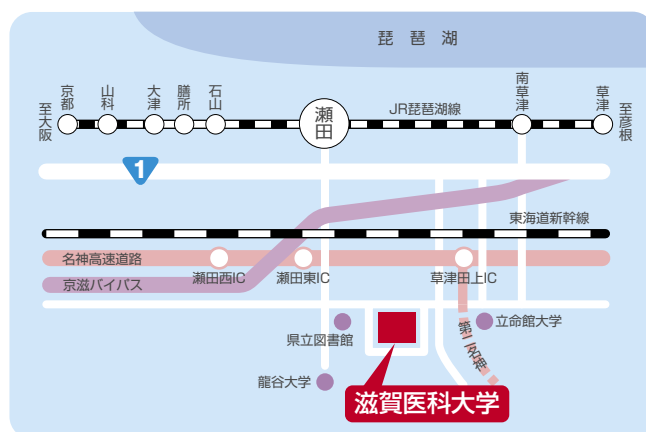
回 記述式評価 教育研究等の質の向上について

- 医師・看護師・保健師の国家試験合格率に達成目標を設定し、ほぼ目標が達成された。
〔医師国家試験合格率:全国6位、西日本1位〕
- 実験動物の取り扱いについてのセミナーを開催し、動物福祉に配慮されている。
- 学生3名につき1名の教員をアドバイザーとして配置したほか、図書館の24時間開館、国家試験用の補講・説明会の開催、自習室の確保など、学生支援に積極的な取り組みが行われており、学長と学生の懇談会も開催されている。
- 優秀論文賞の創設や教員表彰規程の整備が行われた。
- 地域における中核的医療機関として、診療科横断的機能集約型診療体制を整備し、医療の質と医療安全の向上が図られた。
- 市民公開講座の開催回数・受講者総数が前年度と比べ大幅に増加した。
〔開催回数:8回→15回、受講者数:402人→1,326人〕

③ 高く評価された特色のある取組

- 回 経営体制及び財務マネジメントシステムの確立
- 回 明確な業務運営方針のもと運営改善を推進
- 回 教員任期制の全面的導入
- 回 独自の事業計画進捗状況管理一覧表による自己点検・評価システムの実施
- 回 コスト構造改革の実施

(注) 各国立大学法人等が文部科学省に提出する報告書。これに基づいて国立大学法人評価委員会が年度評価を行う。この年度評価の結果は、各法人の業務運営の改善・充実に活用される。



JR瀬田駅から帝産バス「滋賀医大」行きにて約15分
「医大西門前」又は「大学病院前」下車
名神高速道路「草津田上IC」から約5分

〈ご意見等の連絡先〉

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただければと考えています。お気づきの点等ございましたら、下記連絡先までお寄せ下さいますよう、よろしく願いたします。

滋賀医科大学 企画調整室

TEL 077-548-2011

E-mail hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

住所 〒520-2192 大津市瀬田月輪町



滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

<http://www.shiga-med.ac.jp/>

発行/平成17年11月

編集/滋賀医科大学・企画調整室